



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療  
先進医療の推進  
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎  
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二  
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1  
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

## 歯科病院だより 100号を記念して

## 昭和大学歯科病院 病院長 榎 宏太郎

昭和大学歯科病院だよりは、2003年10月1日に創刊されました。これまで編集や発刊のためにご尽力下さった職員の皆様や、ご意見ご要望をお寄せ下さった患者さま各位に心より感謝申し上げます。当時の川和病院長は、創刊号において七つの目標を掲げております。そのいずれもが、現在でも色褪せる事無く、我々の道を指し示し続けております。

1. 患者さまの立場に立った医療の実践
2. 予防を重視した医療の推進
3. 術後の管理を重視した医療
4. 安全かつ質の高い医療の提供
5. 先進的な臨床研究の推進
6. 社会に求められる歯科医師の育成
7. 地域機関との連携

そして、100号を迎えた今、この十年間で、これらの目標がどのように達成されつつあるのか、その評価をすべき時期に来ているとも思われます。

まず、『1. 患者さまの立場に立った医療の実践』についてであります。この目標は、臨床教育の基盤となり、教育セミナーの開催や診療体制の改革を促して参りました。全職員の自覚と倫理観が育まれて来たと思えます。また、予約システムや診療用設備の充実によって、受診の利便性やより要求にお応えできる医療技術の供給が図られております。しかし、まだ至らない部分も多く見られます。皆様からのご意見こそが我々の本当の『師』であることは変わりません。

また、『2. 予防の推進』については、各科でその重要性が認識され、歯科衛生士業務の基幹とな

りつつあります。まさに21世紀の医療として、今後もさらなる発展を目指します。

そして、『3. 術後の管理を重視した医療』は、顧みれば、非常に先見性のある内容でした。国の制度もこの健康の管理維持を重要視

するようになりました。日本で、口腔リハや口腔ケアという考えを普及させたのも、実は、本学です。

『4. 医療の安全性と質の担保』に関しては、医療安全の規定が整備され、リスクマネジメントとともにチェック機構が効果を発揮しております。ただし、医療の「質」の評価については、未だにその方法について議論が分かれるところではあります。次項の『5. 臨床研究の推進』とも直結する課題です。単に噛めるようになった、というだけに終わらずに、どのくらい噛めるように治ったのか、もっと科学的に明らかにしなければなりません。

『6. 社会に求められる歯科医師の育成』としては、学問的な知識ばかりではなく、診療態度や治療技術の教育にも力を注いできております。本院で開発された患者ロボットやVirtual Patientなどの試みは、いずれも世界初です。

そして、『7. 地域機関との連携』として、地域連携歯科が設置されました。かかりつけ医院の先生方と緊密な連携を保ち、より高度な医療を提供しております。

これからも、もっとやさしく、もっと精緻に、そして、もっと迅速に、歯科医療を実践していく所存です。何卒宜しくご指導のほどお願い申し上げます。



「昭和大学歯科病院だより」が、記念すべき第100号を迎えました。歴代の編集長はじめ、御尽力いただいた関係者に篤く御礼申し上げます。本学ではさまざまな広報活動をしています。大学全体のオフィシャルな機関誌である「昭和大学新聞」のほかに、各学部や各病院でもそれぞれの機関誌を発行しています。各病院が発行している病院だよりは、病院の活動内容を病院に勤務している職員が共有するとともに、病院に来院する患者さまや患者さまを紹介してくださる地域医療機関の関係者に理解してもらうことを目的としています。

本歯科病院は、昭和52年6月の開院以来、地域の医療機関と連携して、患者さまの立場にたった高度専門歯科医療を提供してきました。本歯科病院の35年の歴史の中で、「歯科病院だより」が発刊された10年前からは、診療科の再編、診療機器の整備、建物の改修や増築などを積極的に進めてきました。開院当時は僅か5診療科でしたが、現在では18専門診療科に加えて、特殊外来や中央診療部門(センター)を有する全国でも有数の規模を有する歯科専門病院になっています。本歯科病院の運営目標、ならびに各診療科やそれを支える部署の活動については、本歯学部だよりで紹介してきましたので、患者さまや地域医療機関の関係者には御理解いただけているものと思います。

歯科病院の重要な役割には、高度な歯科医療の提供とともに、明日の歯科医療を担当する医療人の育成、すなわち卒前臨床教育と卒後臨床研修があります。試行期間を経て、歯科医師の卒直後臨床研修が平成18年度から義務付けられ、本歯科病院においては、昭和大学の卒業生だけでなく全国からの研修医を受け入れて、毎年70-80名の研修医が研修をしています。また、学生の診療参加型臨床実習(学生が医療チームの一員と

して診療に参加し、侵襲の少ない医療行為については直接担当する実習)を推進するために、全国の医科大学・医学部、および歯科大学・歯学部が参加して、社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構が平成14年に創設されました。そして、臨床実習開始前の学生の知識、技能、ならびに態度を担保するために、全国統一試験である共用試験が平成18年から正式実施されています。本学では共用試験に合格して、臨床実習に従事することができると判断されて進級した学生を対象に、白衣授与式を行い、Student Doctorのワッペンをつけた白衣を授与しています。

このように、本歯科病院では各診療科の専門歯科医師の指導のもとで、多くの研修医や臨床実習生がチームの一員として診療に従事しています。そのほかにも、看護師、薬剤師、診療放射線技師、歯科衛生士、歯科技工士、言語聴覚士、臨床検査技師、栄養士など、多くの医療職がチームの一員として活躍し、学生教育にも関わっています。

本学は世界でもユニークな、学部連携医療実習を導入しています。大学附属の各病院において、医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部の4学部の学生がチームを作り、共同で実習をしています。歯科病院でも近い将来、歯学部以外の学生と一緒に実習することもあるかと思います。また、大学の中だけでなく、地域と密接に連携した教育にも力を入れています。

患者さま並びに地域医療機関の関係者の皆様におかれましては、本学ならびに本歯学部の教育方針に御理解を賜り、今後も次世代の歯科医師の養成にご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



「スポーツ歯科」をご存じですか？

医療系総合大学である昭和大学の学生にアンケート調査をしてみると、スポーツ歯科を知っていると答えたのは全体で約35%でした。医・薬学部で20%前後、歯学部でさえ約50%でした。また、スポーツ医学として「スポーツ歯科」を見た場合はどうでしょう。Googleを使って「スポーツ医学センター」で検索しヒットした上位30施設は病院が14施設、大学附属病院が11施設、国・地方自治体が4施設、スポーツ団体が1施設でした。これらの施設は整形外科が主体で内科を併設しているのが16施設あるのに比較し「歯科」を標榜しているのはわずか3施設でした。スポーツ医学の分野においてアスリートやスポーツ愛好家の健康管理、競技パフォーマンスの維持・向上あるいは身体の外傷や障害の予防と治療などは重要です。スポーツ歯科医学の分野においても、スポーツ競技力の維持・向上、顎顔面口腔領域でのスポーツ外傷の予防およびスポーツによる国民の健康づくりが目標としてあげられます。

2012年に「スポーツ基本計画」が策定され「スポーツマウスガード」の着用の効果などの普及啓発を図ることが明確にされました。皆さん、「スポーツマウスガード」をご存じですか？学生にアンケート調査をしてみると、スポーツマウスガードを知っていると答えたのは昭和大学全体で約50%でした。医・薬・保健医療学部で40%前後、歯学部では約70%でした。スポーツマウスガードはスポーツ競技中に口の中に装着する装具で弾性があります。その効果として、歯の保護、口唇・舌・頬の損傷防止、顎関節の保護、顎骨骨折の予防、喰いしばり時の力の発揮、全身のバランスの調整および脳震盪の軽減などが挙げられます。スポーツマウスガードの種類には既製品をそのまま装着するスト

クタイプ、既製品を加熱して軟らかくし口腔内の歯列に圧接して製作する熱可塑性タイプ(図1)、既製品の内側に軟らかいシリコンゴムを盛り上げ口腔内の歯列に圧接して製作するシェルライナータイプ、および歯科医院で上下顎歯列の印象採得をしてオーダーメイドで製作するカスタムメイドタイプ(図2)があります。



図1 熱可塑性タイプ



図2 カスタムメイドタイプ

既製品はスポーツ用品店などで販売されており、価格が安く、入手も容易ですが歯列への適合性が悪く、違和感も強く、外傷の予防効果も低くなります。歯科医師が製作するカスタムメイドタイプは歯型から精密に作製されるため適合性が良く、違和感が少なく、外傷の予防効果も高いという特徴があります。ただし、オーダーメイドのため同様に市販の既製品に比較し価格は割高になります。

アメリカンフットボールやラグビーなどのコンタクトスポーツではスポーツマウスガード装着が義務化されていますが、非義務化競技のスポーツにおいてはスポーツマウスガードの普及率はまだ低く、正しい使用法を理解している人も少ないのが現状です。当科では義務化競技のスポーツ選手はもちろんのこと、サッカー、バスケットボールなど非義務化競技の選手も外傷予防のためにスポーツマウスガードを製作に来科されています。乳歯と永久歯が混合している児童や矯正治療中の方でも製作可能ですので、当科にご相談ください。



## 患者ロボット見学会を開催しました

昨年続き、今年も8月26日(月)に患者ロボット見学会を開催致しました。開催直前の告知にも拘らず、今回は14名の方が参加されました。

参加されたお子さんは、患者ロボット「昭和花子2」を診察し、歯科医師の模擬体験を行いました。さらに、留守番ロボット「ロボリア」を実際に操縦してもらいました。見学会を通して、子供たちに医療・工学の素晴らしさを伝えることができたのなら幸いです。

次回の見学会は未定ですが、御興味のある方は、是非御参加下さい。

矯正歯科 助教 二木 克嘉



患者ロボット説明コーナー  
(開発された横宏太郎教授の説明を真剣に聴いていました。)



患者ロボット体験コーナー(スパイダーマンも応援してくれました。)

## 平成25年度 自衛消防訓練審査会 報告

9月13日(金)、田園調布せせらぎ公園にて、田園調布消防署開催の自衛消防隊訓練審査会が行われ、女子隊部門で準優勝となりました。

この審査会では、緊急地震速報受信時の対応、消火器による初期消火及び屋内消火栓による消火活動など、活動の正確さと、迅速な対応について競います。

審査会に臨むにあたり、皆で幾度も練習を重ねました。その甲斐あって、大会当日には、チーム一丸となり、昭和大学歯科病院のチーム力を遺憾なく発揮することができました。

この経験を活かし、災害時の迅速かつ安全、確実な対応を日頃から心がけ、患者さまにより安心と安全な医療を提供していきたいと思えます。

歯科麻酔科 助教(員外) 大曾根 敬子



昭和大学歯科病院女子自衛消防隊



AED操作訓練中

## 編集後記

猛暑、酷暑の続く中、竜巻が発生したかと思えば、台風が日本列島を縦断したりと、異常気象の連続ですが、ようやく秋の気配が感じられるようになりました。

本日も澄みわたるような秋晴れです。秋晴れといえば小学2年生の時に目に焼き付いた秋晴れの大空に描かれた5輪の輪を思い出します。。。そうです。やったー！！ 2020年東京オリンピック開催！！おめでとう。。。頑張れ日本！！

(K.T)